

## 研修報告書 No.2

研修先：土佐市立土佐市民病院

このたび地域医療研修として、2021年4月1日から4月30日までの1ヶ月間、土佐市民病院で研修をさせていただきました。本研修で学んだことを報告書としてまとめさせていただきます。

土佐市民病院は高知市市街地から西に車で30分程走った場所にあります。土佐市は人口約2万5千人、人口増減率-5.8%、高齢化率37%と非常に高齢化が進んだ地域です。普段、東京の大学病院で研修をしておりますが、街を見ても病院の中を見ても、年齢層の違いを身にしみて感じました。土佐市民病院はそんな土佐市の中核病院として機能しています。

1ヶ月の研修では主に外来診療を担当させていただきました。一般的な風邪診療やなかなか診断のつけられない不定愁訴など、大学病院では経験しにくい疾患群を学ぶことができたと思います。最初こそ不安でしたが、方針や解釈に悩んだ際にはすぐに上級医に相談できる体制を用意していただいていたので、自信を持ってやり遂げられたと思います。2020年の東京ではCOVID-19の流行に伴い、発熱患者への診療体制は大きく異なっていました。私が研修した期間の土佐市ではそれほど流行は見られず、そういう意味でも有病率を意識した診療を学ぶことができました。入院が必要となった患者様には、主治医として病状説明から事務的な作業、治療方針の決定、リハビリの要否、退院後の外来調整まですべてを担当させていただきました。その際も上級医の先生が丁寧なサポートをしてくださいました。ご担当いただいた上級医の先生以外でも、悩むことがあればすぐに相談でき、親身になって教えていただきました。

入院患者様の中にはお看取りの方も主治医として担当させていただきました。Naが176mEq/Lという値を見て、どうしても治療をしたくなる自分がいましたが、そのための点滴を取るという行為、さらに長い時間点滴をしなければいけない状況自体が苦痛を与えるので、積極的な治療をしないという選択をしました。自分の所属する大学病院では経験できないことであったと思います。

外来以外の時間では、救急対応や各種検査、手術への参加など、比較的自由に行動させていただきました。自分が外来で担当して予約を入れた患者様の内視鏡検査を見学して、結果を自分で説明し、また外来で治療方針を修正するというように、より患者様に寄り添った診療ができたように思います。また、当直にも入らせていただきました。夜間の救急外来では、さらに限られた医療資源の中での診療が難しいことを学びました。とても印象に残ったできごとは、腎梗塞を疑った患者様の造影CT検査をオーダーした所、夜間に造影をするのは今年に入って初めてだと言われたことでした。当直帯で診断した虫垂炎の患者様に対して

翌日の手術に参加し、自分で虫垂の切除をさせていただいたことも貴重な体験でした。各診療科や部門を横断して患者様の診療に当たれるというのは、大学病院でのスーパーローテーション方式では得にくいものではないかと思えます。

週末には車を走らせて壮大な山、河、海を堪能することができました。東京での鬱々とした生活を忘れられる1ヶ月となりました。食に関しても山の幸、海の幸に恵まれていてどこで何を頂いても舌鼓を打ちました。特に名産の鰹はおいしく、自分で薫焼きができるお店もありました。余談にはなりますが、この時期の鰹は初鰹と言って脂身が少ないこともあり、個人的にはお刺身の方がおいしく頂きました。

1ヶ月という短い期間でしたが、土佐市民病院での地域医療研修を通して、大学病院ではなかなか経験のできない多くのことを学ばせていただきました。末筆ではございますが、今回の研修をサポートしていただきました高知医療再生機構の皆様、土佐市民病院の諸先生方をはじめスタッフの皆様、そして何より患者様、市民の皆様には感謝の言葉もございません。お世話になりました。